

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
塔野小学校 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

塔野小学校 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・文章のつながりをとらえたり、構成を読み取ったりする技術的な力はポイントが高かったが、想像力を働かせて読む点に関しては課題が残った。イメージをふくらませながら物語を読むことに取り組む必要がある。
	よくできた問題	・指定された表現に直して文章を書きかえる問題では、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する問題では正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・読む能力や言語についての知識・理解・技能については、ポイントが高かった。 ・記述式の問題に課題があり、根拠を示しながら自分の考えを書くことを習慣化しなければならない。
	よくできた問題	・文章を読み、その表現の仕方として適切なものを選ぶ問題では正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・立場を明確にして考えを書くなど、自分の考えを記述して述べる問題については正答率が低く、無解答率も高かった。

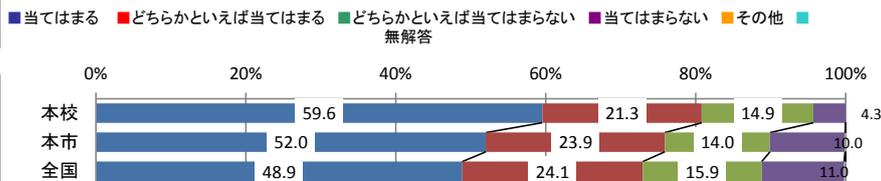
算数A	全体的な傾向や特徴など	・分数、少数を含めて、計算問題についての正答率が高かった。 ・面積、体積を求める問題や、図形に関する問題に課題があり、図から解答に向けてのイメージをつくりだすことができるよう学習に取り組む必要がある。
	よくできた問題	・異分母の分数の加法の計算問題については正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・作図に用いられている図形の約束や性質を問う問題では正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・活用を問う問題に対して、既習の内容をどのように当てはめたらよいか悩む傾向にあり、結果的に記述して答える問題に対しては無解答率が高かった。基礎を固めた上で、様々な活用問題にふれるようにする必要がある。
	よくできた問題	・示された場面から計算の結果の見通しをもち、答えを導く問題では正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・2つの周期が重なる部分を公倍数に着目して答える問題では無解答率が高かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

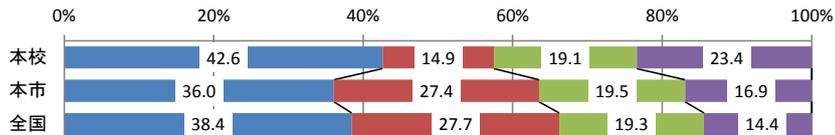
53
読書は好きですか



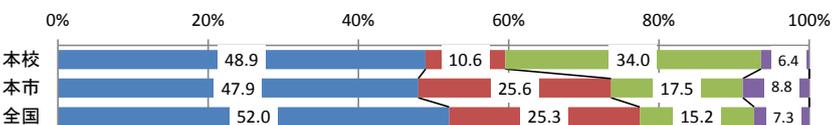
48
生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



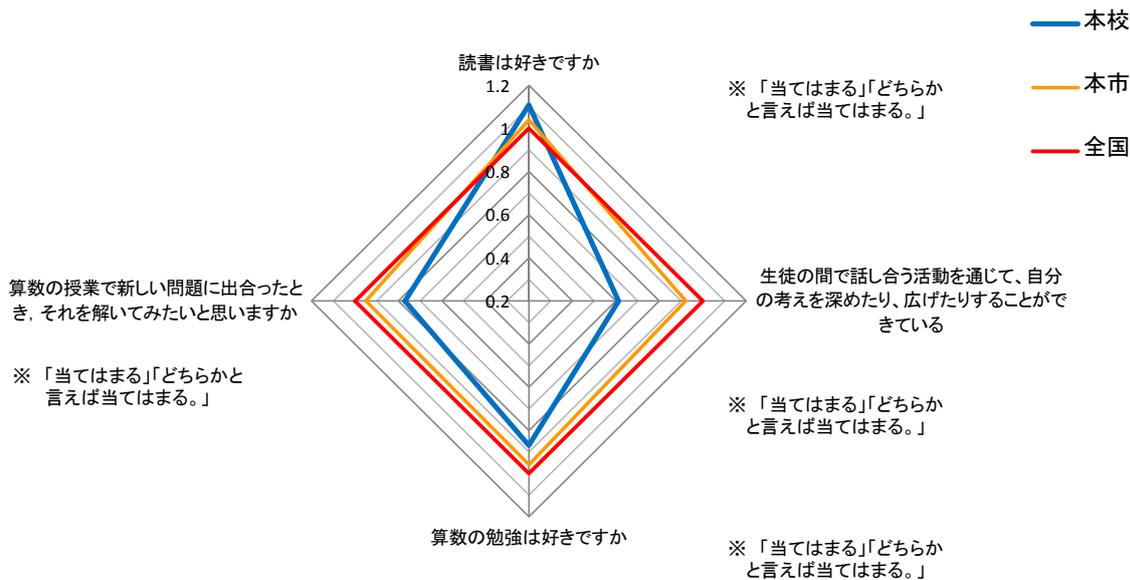
62
算数の勉強は好きですか



65
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・読書が好きな児童が多く、全国や市の平均を上回っている。読書ボランティアの方々の読み聞かせや、図書館の整備などからも良い影響を受けていると考えられる。

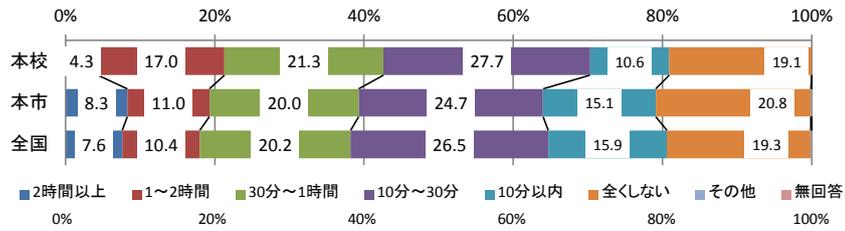
・話し合いについては、友達と考えを練り合い、より深い理解へとつながるような話し合いになっていないことが分かる。自分の考えや意見を発表することは得意である一方、友達の話や意見を最後まで聞くことが苦手という調査結果も出ており、話し合いが深まらない大きな要因になっていると考えられる。

・算数の好き嫌いが二極化しており、算数Bの得点率でも同じような二極化の結果が表れている。新しい問題に挑戦したいと思わない子供も多く、基礎をしっかりと固めた上で、算数の楽しさを実感できるような取り組みをしていく必要がある。

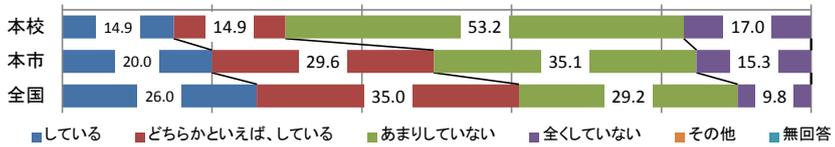
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

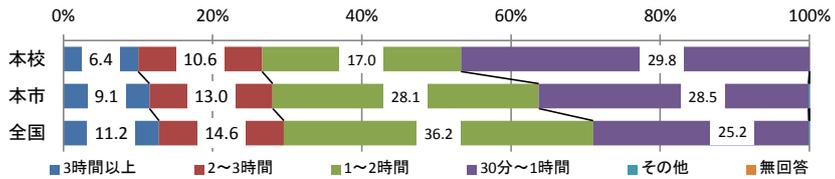
17
家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



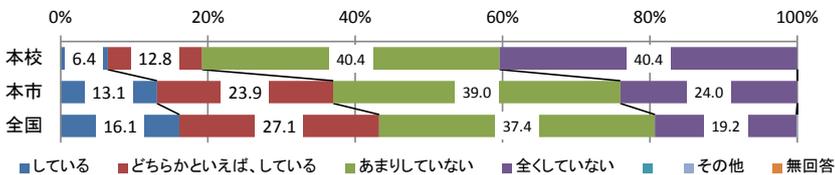
21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



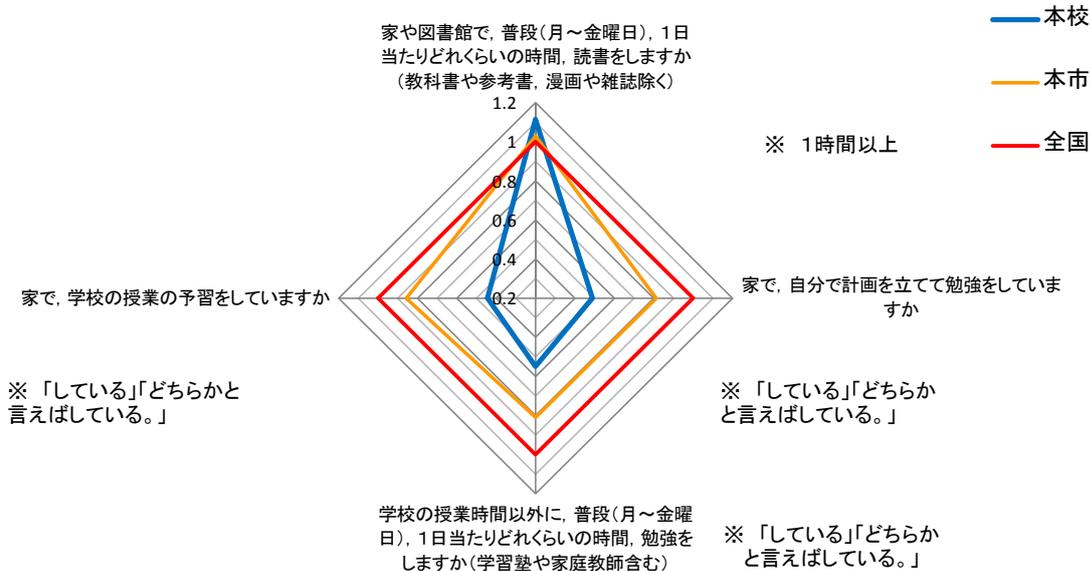
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



23
家で、学校の授業の予習をしていますか



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



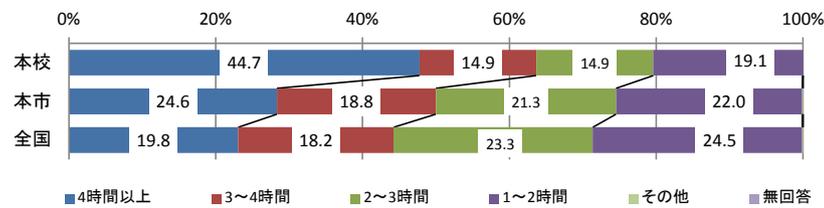
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・読書の時間が全国や市の値に比べて長い。これは、読書が好きな子供が多い結果ともリンクしており、学校で読書の時間をしっかりと確保してきたことにも関係していると考えられる。

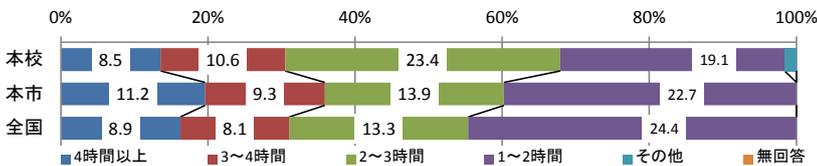
・学校の授業以外での勉強時間が、全国や市の値に比べてかなり短い。予習をしている子供が少ないことも、勉強時間と関係があると考えられる。自分で計画を立てて勉強をしている子供も少なく、この計画がないために決まった時間を勉強に充てていない子供が多いのだと考えられる。

④ 生活習慣等に関する調査結果

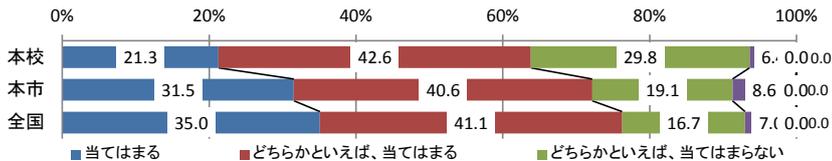
11
 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



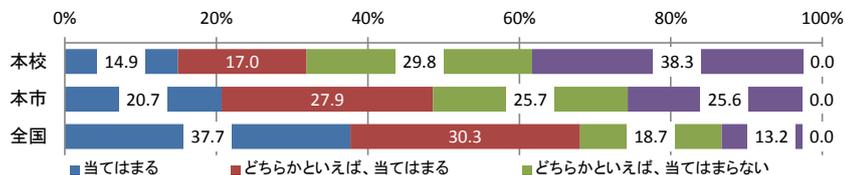
12
 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム含む)をしますか



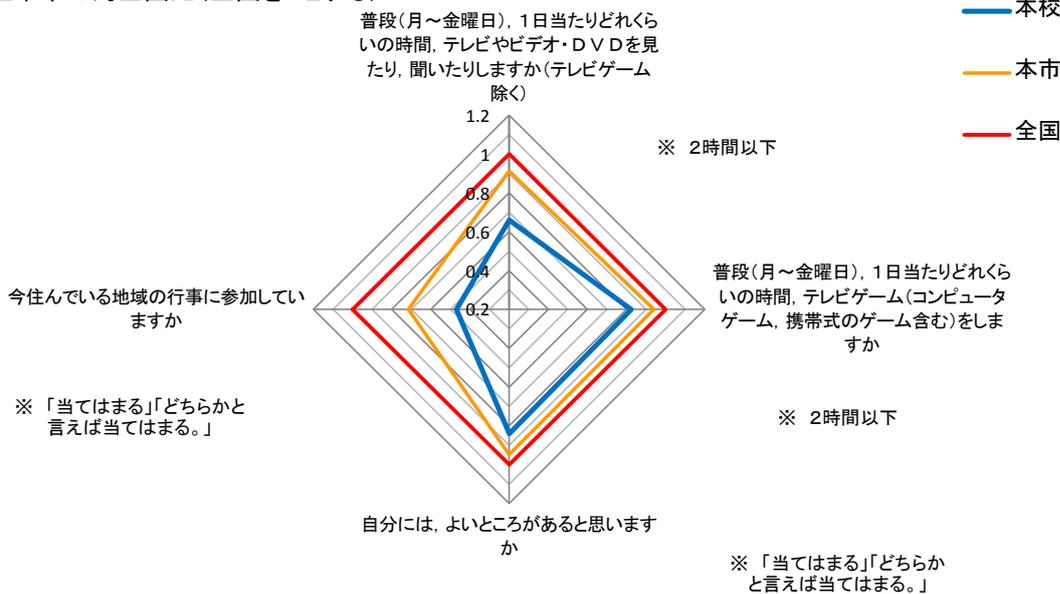
6
 自分には, よいところがあると思いますか



29
 今住んでいる地域の行事に参加していますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・子供が家で過ごす多くの時間, テレビを見たり, ゲームをしたりしていることが分かる。中でも4時間以上テレビやビデオを見る子供が全国の倍以上の割合となっている。最も改善が必要な生活習慣だと考えられる。

・約3割の子供が「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対し「当てはまらない」「やや当てはまらない」と回答している。このような自尊感情の低さは, 学習面, 生活面での意欲と大いに関係があると考えられる。

・地域行事への参加率は全国では上昇傾向にあるが, 本校では低い値で推移している。その一方で家族以外の地域の大人との結びつきが低下している姿が想像される。

・悩み事の相談相手として「先生」と答えた子供の割合が全国の2倍おり, 家族と相談する児童の割合も全国を上回っている。相談できる大人はいることがわかる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・学力向上に向けての計画の共通理解と、学年、学校での取組内容の確認(PDS)
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・全校でのチャレンジタイム(毎朝8:35~8:50)の実施
 - ・小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・チャレンジタイムの学習や長期休業日の宿題として過去問題やアシストシート、活用力を高めるワークを活用する。
 - ・単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付ける。
- ◎ 「書く」ことを習慣化
 - ・学習のめあてとまとめ、ふりかえりを素速く書くことができるようにする。
 - ・国語や算数に限らず、自分の考えを理由を含めて書き、伝えるという活動を積極的に取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化
 - ・自主学習ノートの活用(予習・復習コースと発展学習コースの併用)
 - ・家庭学習時間の設定
 - ・「塔野小家庭学習の手引き」の作成・実施
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・長期休業日の宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学年便り
 - ・学校便り
 - ・学級懇談会